

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

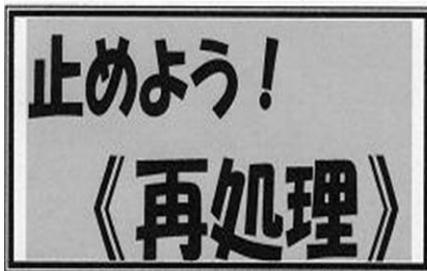
郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2011(平成23)年

11月 4日

第105号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

福島、声にならない叫びを聞いて!

二本松市の今 除染のこと、子供たちのこと。

講演会

真行寺副住職 佐々木道範師



佐々木道範さん

爆発の映像が途中で消えた

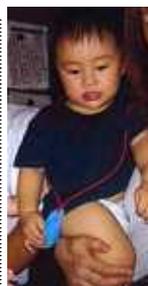
三月一日の地震で二本松市では全壊半壊の被害が出て、私のお寺には三〇人くらいが避難して共同生活を始めていま

十月二十四日、「岩手の会」主催で、福島県二本松市の寺院で幼稚園を経営している佐々木道範さんの講演会を行いました。会場の専立寺の大広間には、約三〇人が集まり、講師の「三・一一」以降の体験談を聞きました。福島県内の放射能汚染とその中で暮らす人びとの、特に母子供達の窮状について苦しい胸の内を述べました。岩手の私達も真摯に受け止めなければならない講演内容でした。

小学校のそばに放射能除染所 原発の実態について何か隠されていると感じていましたが、すぐ近くの小学校校庭がヘリポートになり一日一〇回以上の発着が続き、すぐ向かいの県の施設で、被曝者の除染作業をしていることが、明らかにになりました。そこでは、厳重なゴーグルやマスク、防護服姿の人達が立ち働いていました。そのヘリポートの発着を見物していた子供達一八人全員がその後の検査で内部被曝

した。一四日頃、五〇キロほど離れた福島第一原発の爆発する映像がテレビで放映されましたが途中で消え、その後、その場面は写らなくなりました。これは大変な事になると予感し、妻と一歳の未っ子、約三〇人の避難民はガソリンをかき集めて車二台で新潟まで避難しました。

しているとわかりました。学者達が各地で「安全である」と講演 三月末には二本松市内でも全国から派遣された「放射能アドバイザー」という「学者」達の講演会が開催されました。内容は「原発事故の放射能は、直ちに影響が出るほどではない。マスクなど必要がない」というもので新聞もその通り報道しました。素朴な住民達はそのように信じました。



赤ちゃんに積算線量計

それなのに県は、中学生以下全ての子どもに、放射能の「積算線量計」を常時身につけるよう予算化しました。福島の子

供達はお守りのようにこの「線量計」をつけています。各市町村毎に取り扱いは異なるようですが、回収後のその測定値を本人の健康管理に役立てるような明確な説明がなされていません。データを取ることだけが目的のようにも思われます。 校庭の土が 何十万ベクレル 四月に学校が再開され

ると聞きました。校庭の土が大丈夫なのかと心配になり、土を採種して、たんぼぼ舎」を通じて神戸大学で測定してもらいました。その結果約九〇万ベクレル/m² (ヨウ素131+セシウム134+同137)という値が出てチェルノブイリの避難区域と同じと言われました。

さっそく小学校の校長に四月の学校再開は危険ではないかと申し入れました。ところが校長は、教育委員会や文科省が大丈夫といっているので大丈夫だ」と言いました。校庭の土の測定値を伝えたら「誰の許可を得て校庭の土を取ったのか」と云う始末でした。

真行寺幼稚園の土 私の経営する幼稚園も当然放射能で汚染されてきました。とにかく四月中は休園しようと考えていましたが共稼ぎの夫婦など、休園されては困る家庭があり、その人達に限って受け入れました。 しかし、園庭は汚れています。親戚で「チエルノブイリ救援・中部」理事をしている叔父がいて連絡をとって助言を求めました。セシウムを除くには、土の表面を二、三センチくらい削ればよ



真行寺幼稚園の子供達

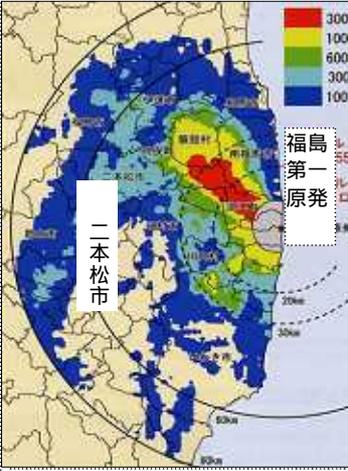
「い」と云うのでさっそくやりました。削った土は、五センチくらいの穴を掘りシートで囲って埋めました。屋根の瓦、壁も高圧洗浄機で洗いました。その結果地表5センチで〇・二丁〇・三マイクロシーベルト／毎時になりました。

夏休み、北海道へキャンプに

セシウム134+137による土壌汚染

文科省とDOHによる第三次航空モニタリング (2011/7/8) による。

作成 美浜の会



(凡例 上から)

赤	3000 kBq / m ² 超
黄	1000 ~ 3000 kBq / m ²
黄緑	600 ~ 1000 kBq / m ²
水色	300 ~ 600 kBq / m ²
紺	100 ~ 300 kBq / m ²

セシウム134は半減期が2年、(*1.8×10の16乗Bq)セシウム137は半減期が30.2年。(*1.5×10の16乗Bq)

(*)は1:2:3号機合計の大気への放出量試算値 (IAEAへの政府報告書・六月)

福島の子供達の顔は、戸外で遊ぶことを禁じられているので皆青白い。ストレスがいつぱいです。全国生協連や全国宗教者の会のカンパと、北海道庁による船の提供により、福島から北海道へ船の旅と保養所での生活が出来ました。幼稚園児と保護者一七〇名一緒に旅でした。子供達は、北海道の自然の中でたまりにたまったストレスを発散して、それこそ弾けるようにはしゃぎ回りました。

私たちも、そのキャンプ中交流が出来ました。特に母親達の多くは、子どもに被ばくさせてしまったのではないかと、いう「罪悪感」を胸にしま

い込んでいて、二本松では口に出して話せませんでした。しかし、北海道のキャンプでは、思いっきり胸の内を吐露し、涙ながらに語り会いました。そして、大人達は、北海道の野菜や果物、根菜類等を買って集めて福島に送りました。

これでいいのかわからない悩み

私には五人の子供もいます。一歳、五歳、中一、中三、大学生です。三月に原発が爆発したとき、子供達は妻とともに新潟県にとりあえず避難したのですが、現在は結局みんな戻って来ました。しかし、家や寺院の中は毎時〇・一〜〇・三マイクロシーベルトです。

本堂の雨樋の下などは三九マイクロシーベルトもあり雨樋そのものを交換しないとダメでしょう。子供達をこんな放射能のもとに置いてよいのか、福島ではみんな悩んでいます。私達のように仲のよい夫婦でも毎日ケンカです。岩手や宮城では離婚率が下がっているようですが福島県だけは離婚率が二・三〇パーセントほど増えているそうです。

放射能測定器を購入 市民による食品の

「母乳からセシウム検出」という報告があり、母親達は大きな危機感を持ってしています。母親達を中心に、市民達がNPO法人を立ち上げて「食品の放射能測定器」を購入しました。四〇〇万円でしたが、九月二八日に到着しフル回転を始めました。全国からカンパによるものです。二本松市は最近やっと「除染測定課」を設置し、測定器も発注したそうですが、到着は年末との事です。

子供達から責められている気がする。幼稚園の「七夕祭り」での願い事は、例えば、そとであそびたいとかげんぱつなくなれです。原発について大人として、子供達に責められているような、苦しい気持ちになります。

福島を忘れないで 同じ被災した岩手や宮城ももちろん大変ですが、何と言っても一歩一歩前に進んでいると思います。しかし福島は、全く前進していないのではないのか? 国にだまされたのではないのか? 福島は見捨てられるのではないのか? そういう気持ちになるところがあります。皆さ

コラム 水めがね

原発事故の責任をあいまいにしてはいけない

原発事故から七か月が経つが、一向に収束していかない。被災に対する賠償問題にも、東電はまるでやってやるといふばかりの木で鼻をくくつたような対応。国は右往左往するばかりで、「脱・原発依存」の方向性も示せない。積極的に子どもと女性を避難させることさえしていないから、その只中に取り残された人々は、子ども達に申し訳ないと思う。自分達が悪かったのではないかと思いはじめ。しかしそれはあくまで、個人的な心象。

ん、福島の、声にならない叫びを聞いてください。

懇親会で話されたこと

福島県は、子供達に「積算線量計」(ガラスバッジ)をつけてさせる予算措置をしたが、その測定値をどのように扱うかは市町村任せで、回収の担当課が不明なところや中には本人に結果を知らせないところもあるらしい。どれだけの性能かわからないが、本人の健康情報の一つとし、母子手帳や健康診断手帳に書き込

その大勢の心にきざす思いを表にかざして、電気を使い、原発の恩恵を受けてきた国民にも責任があるかのように仕向ける議論に注意しなければならぬ。ちょっと前には、原発からの廃棄物の処分は今を生きる私たちに責任がある、早く処分場を、というNPOの広告があった。どちらも本当の責任者の罪をあいまいにして、原子力政策の決定権の外側にいる国民にその罪を押し付けようとしている。原発事故の責任はあくまで、東電。そして権力を駆使して原発を推進した政治家、官僚、専門家と呼ばれる人々にあることを忘れてはならない。(淳)

本の紹介
「自分と子どもを放射能から守るには」
ウラジミール・パベンコ著
(ベラルーシ・ベラルド
放射能安全研究所)

世界文化社刊 八四〇円